

令和7年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立茨田北小学校

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、「豊かな心を持ち、明るく、たくましく生きる子どもを育てる」ことを教育目標に掲げており、知育「よく考え、進んで学ぶ子」・徳育「自分の良さを伸ばし、人も思いやる子」・体育「あきらめずにやりぬく子」の調和のとれた人間形成をめざしている。

令和3年度の「全国学力・学習状況調査」の結果等から、本校の児童は日ごろから授業に集中し、あきらめず粘り強く問題に取り組むことがわかった。しかしながら、「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」のアンケートの質問に対する肯定的な回答が全国と比べて少なかった。これらの結果から、自己肯定感を高めるために、グランドデザインに沿って、教科横断的な視点での授業改善(キャリア教育、道徳教育を含む)や、子どもたちが活躍できる行事や委員会活動、クラブ活動等の充実を教職員がワンチームとなって組織的に取り組んでいく。

また、ICTや新聞教材の活用を積極的にすすめ、自主学習の定着や学習の機会を増やし、学力向上をめざす。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 R5 81.4 R6 87 R7 85

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 R5 78.7 R6 75 R7 79.2

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。 R5 24.1 R6 33 R7 29

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を67%以上にする。 R5 65.7 R6 73 R7 70.7

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]

R5 なし R6 7.9 R7 35.2

○第2期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を75%以上にする。 R5 70.0 R6 70.0 R7 73.68

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。 R5 78.5 R6 76 R7 74.3

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 R5 76.7 R6 79 R7 79.2

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を37%以上にする。 R5 33.3 R6 36.5 R7 28.7

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を68%以上にする。 R5 68.6 R6 67.6 R7 70.7

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]
R5 なし R6 7.9 R7 35.2

○第2期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を71%以上にする。 R5 70.0 R6 70.0 R7 73.68

3 本年度の自己評価結果の総括

本校では、「豊かな心を持ち、明るく、たくましく生きる子どもを育てる」ことを教育目標に掲げており、知育「よく考え、進んで学ぶ子」・徳育「自分の良さを伸ばし、人を思いやる子」・体育「あきらめずにやりぬく子」の調和のとれた人間形成を目指している。
令和7年度では昨年に引き続き研究教科は国語科とし、主題を「物語教材文を通して、主体的に学ぼうとする子どもの育成」と設定した。また、副主題を「子どもの育成のために、教師のあり方を考える」とし、教員も児童の学ぼうとする力を実現できるための指導の在り方を研修や研究を計画的に行うこととした。今年度の鶴見区の支部研究発表会ではそれぞれの学年の取組みと実践を通して見えてきた課題について発表することができた。

【安心安全な教育の推進】

○令和7年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。

→令和7年度の結果、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は 79.2%

・「いじめは許さない」という教職員一同の共通認識のもと、昨年度の結果を鑑みてさらに意識を高められるよう研修会を行った。来年度も児童に対して系統的に継続した指導を重ねていく。

○令和7年度小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。

→令和7年度の結果、肯定的に回答する児童の割合は 74.3%

・今年度、目標を上回ることができなかった。全体数の2割強の児童が学校は楽しいと思っていないことを真摯に受け止め、どの子にとってもいきいきと学校生活を送ることができるよう組織としてカリキュラムマネジメントを行う。また、不登校児童に対しては家庭との連携を取りその児童の実態に応じた対応を今後も継続して取り組んでいく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を34%以上にする。

→令和7年度の結果、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は 28.7%

・国語科や総合的読解力カリキュラム等において話し合い活動を取入れられているが、校内研究の結果、自分の考えを深めたり広げたりしていることを実感できていない実態があると考察する。児童が学びでついた力を実感するためには、学習活動での自己の振り返りを取入れ定着化させることが必要であるため、来年度は計画的に行っていく。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を68%以上にする。

→令和7年度の結果、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は 70.7%

○この項目においては目標を上回る結果となった。学級担任や教員が児童とともに外遊びを行ったり、高学年においては担任教科専科制を導入していることで体育科の学習内容に応じた基本運動を取入れ、各学級統一した指導が行えたりしたことも要因の一つと考察する。

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]

→令和7年度1月末までの年間達成率の結果は 35.2%

・昨年度の結果は約9%だったため、今年度は日々の活用の定着化を図った。来年度も、目標を上回れるようタブレット端末を利活用した教科学習活動に取り組む。

○第2期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を71%以上にする。

→令和7年度1月末までの年間達成率の結果は 73.68%

・週に一回の「ゆりの日」はなるべく17時退勤するようにしている。また、普段から18時30分には完全退勤できるようワークバランスを考慮するよう取り組んでいる。勤務時間の上限だけを気にするのではなく、校務の分担や会議等の精選も図っていく。

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。 R5 78.5 R6 76 R7 74.3 ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 R5 76.7 R6 79 R7 79.2	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1、名称 安全・安心な教育環境の実現】 いじめアンケートを毎学期実施して各設問で「ある」と答えた児童への対応を100%にする。 指標 学校アンケートにおいて「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を95%以上にする。 R5 93.6% R6 95% R7 95.5%	B
取組内容②【基本的な方向1、名称 安全・安心な教育環境の実現】 安心して学校生活を送れるように心の天気を活用する。(心の天気で普段と違った天気を2日つけている児童の様子をみる。4日つけている児童には声かけをする。) 指標 学校アンケートにおいて、「学校が楽しいですか。」の項目について、肯定的に答える児童の割合を88%以上にする。 R5 84% R6 88% R7 84.2%	C
取組内容③【基本的な方向番号2、名称 豊かな心の育成】 自分や友達の良い所を考えられるように教師が良いところを伝えたり、終わりの会などで児童同士が良い所を伝え合う活動を行ったりする。また、各教科において話し合い活動を行い自分の意見を認められる場作りをする。 指標 学校アンケートにおいて「自分にはよいところがあると思いますか。」の項目について、肯定的に答える児童の割合を75%以上にする。 R5 74.3% R6 74.9% R7 76.9%	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
① 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について肯定的な回答が95.5%となり、95%を上回り目標を達成することができた。 ・学期に一回いじめアンケートをおこない、「ある」と答えた児童には解決に向け聞き取り、実態を把握して対処することができた。出てきた結果は懇談会で保護者と共有している。また、すべての教育活動を通していじめが許されないことだと指導している。
② 「学校が楽しいですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合が84.2%となり、目標の88%は達成することができなかった。 ・心の天気をつける習慣が児童にある程度定着し多くの児童が入力をする事ができている。雨や雷をつけた児童に声掛けをすることで、話を聞くことができた。

- ③ 「自分にはよいところがあると思いますか。」の項目について、肯定的に答える児童の割合が76.9%となり、75%を上回り目標を達成することができた。
- ・終わりの会や道徳の時間のよいところ見つけなどで友だちのよいところを見つけて伝える活動を通して、一人一人によいところがあり、自分にもよいところがあると感じられる児童が増えている。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体	目標
①いじめ	95	95.1	100	90.3	98.1	94.1	95.7	95以上
②楽しい	87.1	89	88.3	78.5	73.1	89.1	84.2	88以上
③よいところ	87.1	80.5	76.6	65.6	73.1	78.2	76.58	75以上

次年度への改善点

- ① いじめはぜったいに駄目だということを日々伝えていく。また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目の肯定的回答が100%になるように意識して指導を続けていく。
- ② 心の天気を継続していく。また、普段からの話しやすい雰囲気づくりや指導者の声掛け、子ども同士の関係の観察などをしていく。
- ③ 「あてはまらない」の回答が11.2%いるので、今の取り組みをすすめながら学習の成果物をクラスや学年で見合い、ほめあうような認められる場づくりを増やしていく。

大阪市立茨田北小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を37%以上にする。R5 33.3 R6 36.5 R7 28.7</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を68%以上にする。R5 68.6 R6 67.6 R7 70.7</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、名称 誰一人取り残さない学力の向上】 問題解決学習を通じて、学級の友達と意見を交流し合う活動を積極的に取り入れる。</p> <p>指標 国語科の学習で週二回以上、授業で友達と意見交流し、考えを伝え合うことができる学習を行う。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向5、名称 健やかな体の育成】 各学年の発達段階に応じた走の遊び、走の運動、陸上運動に取り組む。</p> <p>指標 昨年度の5年生の新体力テストのデータ分析より、「素早さ」と「力強さ」が要求される「スピード」を測定する種目において、全国平均と比べ、女子の結果が0.8ポイント低い結果が見られたことから、今年度は学校全体で走力の向上を目指し、「50m走」の種目において、再度冬にも記録を取り、春の記録に比べ、0.1秒以上早く向上させる。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向6、名称 健康や体力を保持増進する力の育成】 児童が心身ともに健康になるために、望ましい食生活の形成や、食に関する理解の促進をはかる</p> <p>指標 毎日の給食と食についての学習(年2回)を通して、いろいろな食べ物の栄養について理解する。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取り組み内容① 国語科を中心に、自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりする活動を積極的に取り入れ、意見交流する活動に、各学年週二回以上取り組むことができた。また国語科に限らず、他の教科においても、友達と意見を交流しあう活動を計画的に取り入れることができた。</p> <p>取り組み内容② 準備運動や授業の導入で鬼ごっこやかけっこ、リレー等を行い、「走」の能力を高める運動を取り入れている学年が多かった。また、ラダーなどの体育用具を活用したり、遊び要素を取り入れたりすることで楽しみながら、意欲的に活動する姿も見られた。その結果、50m走の種目において、春の記録よりも、冬の記録を向上することができた。</p>	

50m走…春「学校平均：10.8秒」→冬「学校平均：10.5秒」

取り組み内容③

栄養教諭による年二回の食育指導は計画通り実施できた。また、給食時の放送や給食カレンダーによる給食指導など、日常と結び付けながら学習に取り組めた。

次年度への改善点

取り組み内容①

意見交流の活動を各学年計画的に取り入れていくとともに、より効果的な話し合い活動になるように、各学年の発達段階に応じた話型など、指導方法についても検討していく。

取り組み内容②

2年間、「走」の能力を高める運動に取り組み、ある一定の成果はあった。よって、次年度以降は、スポーツテストにおけるソフトボール投げの5年生の学校平均が大阪市平均より低かった「投」の能力を高める運動に取り組んでいく。また、どの分野についても学校全体で、計画的に取り組むために、体育部を中心に検討していく。

取り組み内容③

年に二回の栄養指導や日々の給食指導を継続して行い、児童が食に興味をもち、栄養に注意したり、気にしたりするよう促していく。また、「きゅうしょくだより」や「栄養ニュース」などの手紙を通して、食事の大切さを家庭へ伝えていく。

大阪市立茨田北小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く] R5 なし R6 7.9 R7 35.2</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を71%以上にする。</p> <p>R5 70.0 R6 70.0 R7 73.68</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DXの推進】</p> <p>児童が興味・関心を持てるようなICTを活用した学習環境づくりに取組む。</p> <p>指標 週に2日以上(心の天気入力を除く)はクラスの児童がタブレットを使用する機会を設ける。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>児童、職員ともにゆとりがあり、働きやすい環境づくりに取組む。</p> <p>指標 週1回はゆとりの日を設定する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <p>読書に親しみを持てるよう、図書館開放を活用する。</p> <p>指標 木曜日の図書館開放を活用する児童を平均40人を超えるようにする。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>取組① 各学年、発達段階に応じた活動をすすめることができた。アプリの活用も浸透しており、利用率としては平均67.4%(1月)と昨年比べて上昇したが、80%に到達した日は35.3%(1月末)で目標にはわずかに届かなかった。日頃から一人一台端末に触れる機会を設けるためにも、指導者側もICTについて理解を深める必要がある。</p> <p>取組② 週に一日、ゆとりの日の設定はできており、働き方改革の意識を広げることができた。しかし行事の偏りなどにより、時間内に業務が終わらないことも多い。</p> <p>取組③ 木曜日の図書館開放を活用する児童は平均46人であった。図書カードの活用や図書委員会の広報活動により、図書室の利用者は広がった。積極的な呼びかけは効果があり、利用者の増加につながった。</p>	

次年度への改善点

取組① 教育 DX をさらに推進するために、児童だけでなく指導者側のスキルを高め、有用な知見を共有していく必要がある。

取組② ゆとりの日を継続して設定しつつ、会議や行事の精選や授業資料の共有などで業務の効率化を図っていく必要がある。

取組③ ブックウィーク等のイベントには効果が感じられたので、次年度も広報活動やイベントを開催し、利用の推進に取り組んでいく。